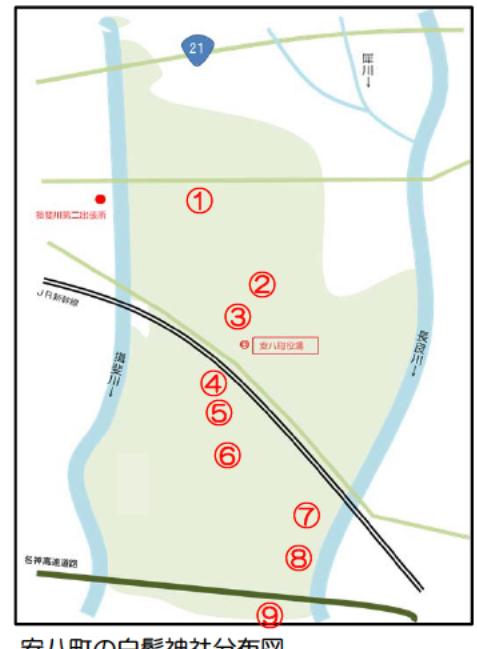


『土地の守護神か?』、なぜか多い白髭さま

- 昔から、それぞれの集落に祀られた神々は、集落に住む人々の生活と深い関わりをもった神でした。現在、西美濃地方のうち、大垣市南部、安八郡、羽島市西部、海部郡北部にかけて、猿田彦神を祭神とする白髭神社が多く、ことに安八町は9社が祀られており、しかも、町内の中央部をほぼ縦断的に一筋の道のように鎮座しています。なぜ、安八町に住む先人たちは、このように多くの白髭神社を祀り、特異性をもち建てられてきたのでしょうか?



- さるたひこ
- 猿田彦命を祀る名神大社4社の由緒で共通するご神徳は、地まつり（地鎮祭）・方災解除・土地家屋敷の守護に靈験が顯著だとされていることであり、今も建物の建設の際に行われる『地鎮祭』には猿田彦命を祀っています。一方、安八町の白髭神社の多くは、ほぼ1550年から1650年の100年間に集中して創建されています。この点で思い当たることは、この頃、当町がたびたび大洪水に見舞われていることです。すなわち、天正14年（1586）の木曽川大洪水、また慶安3年（1650）の大洪水です。ことに慶安3年の時には、大垣市内にも浸水し、4,500人以上の死者があったと言われています。

当町になぜ集中して白髭神社が多いのかという疑問に対する一つの理由として、古くから水害の多発地帯である当町の災厄から人命や土地や家屋・田畠を護ってくれる神として、猿田彦命を積極的に勧請して祀ったものと思われます。また、民族学者柳田国男は、『柳田国男全集第8巻』の中の「白髭水」の中で、「白髭様といふ神は、東京でも向島の堤の上に祭って居るやうに、主として水辺の神でありまして、近江の湖水の岸に於いては、七度まで此海の田畠であった事を、記録したまふ神と古くから信じられました。

（中略）

大水の出はなに、白い毛を長く垂れた神様が、水の上を下って来られる姿を見たとか、又は山から岩を蹴りながら、水路を開いて下れたとか謂って、以前は水のほとりに其祭をして居たらしいのであります。・・・と述べられていることを重ね合わせますと、先人たちの必死の祈りが伝わってくるようであります。

出典：「安八町 歴史と地名をたずねて」

安八町に鎮座している白鬚神社



位置： 西結字西蚊
祭神： 猿田彦命
創建： 勧請年代は不明であるが、地元では古い時代に創建されたと伝えられている。



位置： 北今ヶ渕字横堀
祭神： 猿田彦命
創建： 「濃陽志略」に、白髮大明祠とあって、正徳2年（1712）に白鬚神社に改称された。



位置： 南今ヶ渕字大道添
祭神： 猿田彦命
創建： 創建は不明であるが、延宝9年（1681）の村絵図に当社の地が記されている。



位置： 大明神
祭神： 猿田彦命
創建： 勘請年月は不明であるが、文化2年（1805）における社殿・鳥居・境内地などの記録が残されている。



位置： 氷取
祭神： 猿田彦命
創建： 文化8年（1811）に大明神村の白髮大明神のご分神によって創建された。



位置： 大野字古子
祭神： 猿田彦命
創建： 今からおよそ400年前に創建されたと伝えられ、「濃陽志略」に白髮大明神を村民が奉祀したとある。



位置： 善光字河原
祭神： 猿田彦命
創建： 創建年代は不明であるが、桃山時代の文禄2年（1593）2月5日に再建されたと伝えている。



位置： 南条字中道西
祭神： 猿田彦命
創建： 天文2年（1533）に江州高島郡に鎮座している白鬚神社通称比良明神から勧請し、白髮大明神と称していた。



位置： 中字村内
祭神： 猿田彦命
創建： 今からおよそ400年以上を経た古い神社と伝え、慶安2年（1649）と延宝5年（1677）の2回、社殿が再建された。